※令和３年度以前入学生用

学校番号	3032

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史Ｂ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	新詳　世界史Ｂ　（帝国書院）						
副教材等	アカデミア世界史　（浜島書院）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・　世界各地域でおこる事象どうしの関係性を捉え、グローバル化の過程を知ろう。

・　様々な歴史的事象を比較し、人間や社会の共通性と相違点を考えよう。

・　歴史を背景とした世界の国・地域の諸事情を踏まえ、将来の日本のあり方を考えよう。

２　学習の到達目標

・　副教材の図表等を活用して諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。・
・　現代の諸課題を近代以降の歴史と結びつけ、歴史的観点から考察する。
・　世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連づけて理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	古代から近現代に至る世界史への関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	古代から近現代に至る世界史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったりレポート等にまとめたりしている。	古代から近現代に至る世界史についての基本的事項を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	・　学習態度 ・　確認テスト ・　レポート ・　発問への対応	・　学習態度 ・　定期踏査 ・　レポート	・　学習態度 ・　定期考査 ・　レポート	・　学習態度 ・　確認テスト ・　定期テスト ・　発問への対応

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめる。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価する。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期〈4・5月〉	古代の世界	・先史時代とオリエント ・ギリシア・ローマ ・インド・東南アジア ・黄河文明～隋・唐	○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○	a: 各地域の自然や風土と歴史のつながりを考察し、興味関心を高めようとしている。 b: 各地域の動向を多面的に考察し、個々の歴史事象の因果関係を適切に表現している。 c: 各地域の事象を他地域との交流に留意して、必要な諸資料を収集し、読み取ったり、レポートにまとめたりしている。 d: 各地域の地理的条件に留意して、歴史的知識を身につけてまとめることができる。	・学習態度 ・確認テスト ・定期テスト ・発問への対応 ・レポート
前期〈6・7月〉	ユーラシア世界の交流	・イスラム世界の成立 ・中世ヨーロッパ社会の発展 ・東アジア世界の成熟	 ○ 	○ ○	 ○ 	○ ○	a: 現代社会の重きをなしているそれぞれの地域の地理的環境と歴史的風土の関連を意欲的に考察し、興味関心を高めようとしている。 b: それぞれの地域の動きを多面的多角的に考察し、それぞれの歴史的世界の発展状況を適切に表現している。 c: それぞれの時代の事象を他地域との交流に留意して、興味あるテーマの考察に必要な諸資料を収集し、読み取ったり、レポートにまとめたりしている。 d: 三つの地域の地理的条件や日本の歴史との関連を理解し、その知識をまとめることができる。	・学習態度 ・確認テスト ・定期テスト ・発問への対応 ・レポート

※令和３年度以前入学生用

前期〈8・9月〉	近代世界の発展	・大交易時代 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパ主権国家体制 ・アジアの繁栄 ・革命の時代 ・19世紀の世界と日本	○ ○ ○	 ○ ○ ○ 	○ ○ ○ 	 ○ ○ ○	a: 近代以降の世界史の歩みを日本の歴史との関連に留意し、意欲的考察し、興味関心を高めようとしている。 b:ユーラシアの各地域の動向を新たに登場したアメリカ世界との関連に留意し、多面的に考察し、個々の歴史事象の因果関係を適切に表現している。 c: ヨーロッパ・アジア・アメリカ・アフリカのそれぞれの地域の近代史の流れを他地域との交流に留意して、各テーマの考察に必要な諸資料を収集し、読み取ったり、レポートにまとめたりしている。 d: 学習するテーマについて地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解しまとめることができる。	・学習態度 ・確認テスト ・定期テスト ・発問への対応 ・レポート
後期〈10・11月〉	二つの世界大戦	・帝国主義の時代 ・第一次大戦とロシア革命 ・戦間期の欧米 ・20年代のアジア ・第二次大戦	 ○ ○ ○	○ ○ ○ 	○ ○ 	 ○ ○	a: 二つの世界大戦の原因とその影響について意欲的に考察し、興味関心を高めようとしている。 b: 二つの世界大戦が各地域に及ぼした影響について多面的に考察し個々の歴史事象の因果関係を適切に表現している。 c: 二つの世界大戦の原因と結果に関する諸資料を収集し、参考となる情報を選択して、読み取ったり、レポートにまとめたりしている。 d: 二つの世界大戦に関して日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけてまとめることができる。	・学習態度 ・確認テスト ・定期テスト ・発問への対応 ・レポート

※令和３年度以前入学生用

後期〈12・1月〉	戦後史と日本	・冷戦と第三世界 ・多極化の進展と冷戦の終焉 ・現代の世界と日本	○ ○	 ○ 	○ ○ 	 ○	a: 戦後世界史と日本の歴史との関連に留意し、そのつながりを意欲的に考察して興味関心を高めようとしている。 b: 戦後世界史の歩みを冷戦とその終了につながる動向から多面的に考察し因果関係を適切に表現している。 c: 冷戦の展開と多極化の進展を、各地域の交流・接触に留意しながら個々の事象の考察に必要な諸資料を収集し読み取ったりレポートにまとめたりしている。 d: 戦後世界史の展開を日本の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけてまとまることができる。	・学習態度 ・確認テスト ・定期テスト ・発問への対応 ・レポート

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。